

人間・環境学研究科

研究科長・総合人間学部長

堀 智考 教授



全学共通科目「化学概論」

もう20年くらい前かな、経済学部
の先生方と、当時の一般教養科目について
意見交換をしていたんですよ。私は化学
を教えてください、経済学部の先生は
その授業の成果をどのように思っておら
れますかってね。そうしたら、「半導体
の作り方とか、プラスチックが何種類あ
るかとか、いくら聞いてもきりがなし。
もっと、聞いただけで化学がなんとなく
わかったという気分になれるような話を
してくれ」と言われたんです。要するに、
化学のコツがわかるように、と。その話
を聞いて、化学教室の先生が15人ほど
で会議をしたんですけど、「どんな授業
だったら文系の人に喜んでもらえる授業
になるか」ということを議論するのかと
思ったら、「誰がその授業をやるのか」
ということを議論していて(笑)。それで、
そのうちの1つをやられて言われて、そ
ういう経緯で始めました。

やはり初めはつまらなかったですね。みん
なあっち向いてるし、寝てるしね(笑)。
それで、限られた時間で化学のコツや真
髓を伝えるには、何を題材に選んでどん
な順番でやればいいかと考えました。

勉強には、あわただしい競争をしな
ければならない勉強と、気持ちが和らぐ
ような勉強とがあると思うんです。「化
学概論」のように文系の人に教えるとき
には、気持ちが和らぐ方をお話ししよ

うと思っています。化学において大きな
提案をした学者を10人ほど、「この人は
こんな問題に取り組んでこういう答えを
見事に出したんですよ」ということを話
します。聞いているみなさんが「人間と
して生まれてきて良かったなあ、こんな
成果を聞けるなんて」と思えるようにね。
自分で成果を出すのは大変ですけど、聞
くだけですから楽ですよ。だから、話
を聞いたからといってセンター試験の化
学がわかるようになったりはしないけど、
人間が考える大事なことはこういうこと
なのか、っていうのは少しはわかっても
らえるのではないかと思います。

食べ物と勉強との関わり

誰かが作ってくれた食べ物やお茶が用
意されていることと勉強することの間に
は、ずいぶん深い関連があると思って
います。学生はお金はないですが時間は
あるわけですから、ごはんを食べたりお
茶を飲んだりするときに、ただエネ

ギーを補給するだけではなく、ゆったり
と心を解放することができる。そうい
うのが学生の特権というか、学生の時代
に経験しておくべきことだと思います。

ガリレオ＝ガリレイは、「誰か僕にお
いしいものを食べさせてくれないか。そ
うしたらいくらでも面白い話をするんだ
けど」と言っていたそうです。僕なんか
は逆に「おいしいものを食べさせてあげ
るから、面白い話を聞かせてほしい」と
いうタイプですけど、おいしいものを
用意して、人から面白い話を聞くとい
う時間を持つことは大事だと思います。

あと、僕が理学部の助手から教養部
に転任するときの話なんですけど、大
事にしてもらった教授に転任の挨拶に行
ったときに、「面白い研究をするためには
、上などお茶を飲まなければならないよ
」と言われました。これも同じようなこ
とを言っているでしょう。

生協の食堂もそうですよね。人と議論
するなり勉強するなり、何をしていても
食べ物のことを気にしないでいいんで
すから。ちょっと小銭をポケットに入れて

プロフィール

1946年生まれ、滋賀県出身。京都大
学理学部卒、理学博士。1975年か
ら5年間京都大学理学部助手を務め、
1980年に教養部助教授となる。1993
年に現職の人間・環境学研究科教授と

なる。2007年から、人間・環境学研
究科長および総合人間学部長を務めて
いる。専門は分析化学、無機化学、地球化学。
趣味は緊急食料としての山芋栽培。

(農・1 みえ)
(純白それは；編)

いけば、必ず温かくておいしそうな食べ
物と飲み物があって。「腹が減った、ど
うしよう」ということを考えて時間に追
われる、なんてことがなくて済むわけ
じゃないですか。それはすごく恵まれて
いると思います。

学生は大事にされている

先ほどお話しした「おいしいものを
用意して、人から面白い話を聞く」とい
うことを実践しようということで、学会
の仲間で京大が所有している白浜の「海
の家」に行ったことがあるんですよ。自
分たちでそれぞれ料理を作ってごちそう
しあって話をしたんですけど、そこの管
理人のおばさんが、実に大学思いとい
うか先生も生徒も大事にしてくれる人
でね。

僕らが海の家を出るときに、次に泊ま
る学生たちが海側にいたんですが、お
ばさんが左腕に大きな魚を抱えて、右
足の脇に大きなキャベツを置いた状態
で、学生に向かって「みんな、今日はお
造りとロールキャベツだよ！」と声を
かけるわけ。僕は一瞬「お造りとロー
ルキャベツってどんな組み合わせだろ
う」と思ったわけですが(笑)、学生た
ちは顔を輝かせてね。おばさんは「お
造りとロールキャベツだよ」と言っ
ているだけなんですけど、あの声かけの
裏には「食事をどうするかなんて考え
なくていいから好き



はみだし すてーじ

光合成ができればよかった
⇒「おかあさん、おなかすいたー」「しょうがないわねえ、光合成でもしてなさい」

なだけ遊んでおいで」とか、「ちゃんと
晩ごはんにはみんなそろって帰ってお
いで」という思いがあると思うんです。
そういうのを見たときに、今の学生は
大事にされてるなあ、僕も学生時代は
あんな風に大事にされてたんだなあ、
ってなんとなく思いましたね。

最近は自分が社会や周りの人から大
事にされていることをわかってない人
がいるように感じます。どれだけ大事
にされているのかということを忘れない
でほしいですね。

楽しく研究するには

研究って、趣味でやるなら良いんで
すけど、プロとしてやるのはつらいん
ですよ。でも、つらいものばかりでは
いけないから楽しくなるような工夫を
します。それは、いつまでたっても答
えの出ないような、壮大な研究のテ
ーマを考えるとということです。領域
が壮大だから、考えてると楽しみに
なる。そういう気の長い研究は、題
目が短いんですよ。そのぶん限定さ
れないから構想が大きいんです。僕
がやっているのは「リンの化学」と
か「ATPの起源」とかですね。5文
字くらいしかないでしょう(笑)。

「仕事はゆっくりやれば芸術になる
けど、急いでやれば労働になる」と昔
の人が言っていました。だから、急
いでやらない方がいいこともあるん
ですけど、息抜きに気の長い研究を
混ぜることにしています。

研究科長・学部長として

僕は今研究科長になって2年ですが、
「総合人間学部」とか「人間・環境
学研究科」って、名前が長いし、理
念も難しいし、できてまだ日が浅い
ということで、我々のやっていること
をみなさんに知ってもらわなければ
ならないんですよ。それで一所懸命
努力して、イベントへの



▲海の家から望む田辺湾とクラブ活動中の学生

招待状や案内の電話があれば、他の
用事と重ならない限り、昼も夜も休
日もみんな出席してたんですよ。そ
うしたら肺炎で倒れてしまって(笑)。
でも、忙しいとはいっても私はタフ
ですから、それなりにやってるつも
りですよ。

京大生にメッセージ

やわらかい話をする、と「心地よい
自慢話ができるように自分を鍛えな
さい」ということですね。自慢話とい
うものは間違えると鼻をつまむよう
なものになりますから。自分が失敗
したことを上手に入れて、人がもっ
と聞きたいと思えるような自慢話
ができるといいですね。みんな独
創的なことをしなさいとよく言
いますが、上手に心地よい自慢話
ができるというのは、新しい研究
なり仕事なりを始めるときの独
創性の原点かもしれません。

固い話をする、と学生というものは
学問を身に付けて周りから尊敬と
信頼を得るに足る人格を形成して
自立しないといけないですよ。経
済的にも、精神的にも、一人立ち
できるということが大事だと思
います。それさえできていたら、余
ほどお金をもうけることもない
ですよ。ちゃんと自立してたら
それだけで財産ですから。

——ありがとうございました。
(亜子)

(理・3 敗者)
(だいたいこんな感じ？；編)

はみだし すてーじ

京大合格生のノートは必ずしも美しくない。
⇒寝ていた授業の分は美しいです。